

教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 干共 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話
03(3202)0546
FAX03(3207)3918
発行人 内藤留幸
編集主筆 竹澤知代志



下落合教会で。まだ走り出したところなので、みんな元気

『北支区五十三次』東京教区北支区青年部

祈ることの大切さを改めて教えられ

東京教区北支区には、現在、五十三の教会があります。その数だけに注目すれば、決して大所帯とは言えない規模と言えるかもしれません。しかし規模が小さければ、諸教会間の交わりが容易に深められるかと言え、そうとも言えないのが実情です。諸教会の青年たちが自由に出会い交わりを深めるには、規模の大小に

諸教会と出会うための一歩

一〇月八日の祝日に行われた『北支区五十三次』第一回新宿区編に参加させて頂きました。東京教区北支区青年部では、支区内の諸教会の青年相互の交流をより豊かなものとするため、諸教会の声に聞きつつ、青年部の委員を中心に積極的な活動を展開してまいります。そして、今年度諸計画の中でも特に柱となるものの一つとして実施されたのが、『北支区五十三次』です。

自転車で支区内53教会を巡る

となると、「名前を知っている、一体どこにあるのかさえない」といった青年は決して少なくはないものです。

そこで北支区青年部では、互いに顔の見える関係を築くための第一歩として、各地域特有の課題を担っておられる諸教会を自転車に乗って訪問することにしました。これが『北支区五十三次』です。そこでは、諸教会の青年たちと出会い、話を通じて実情に触れ、各地域における宣教の働き、特に青年伝道をはじめとする諸活動の実態を知り、た上で共に祈りがさげられます。

訪問教会での出会い

「北支区五十三次」を月曜日に実施したということもあって、牧師が留守の教会も少なからずありました。その場合は、教会前で青年が代表して訪問教会を覚えて祈るのですが、諸教会の働きを覚えて祈ることの大切さを改めて教えられました。

新宿西教会到着時には雨が本降りになっていましたが、出迎えて下さった牧師の笑顔に接した時、参加者全員が雨に負けないほどの励ましを得たことと思えます。新宿コミュニケーション伝道所では、牧師から記念の

今回は、第一回目ということもあり、無理をしないという、特に五十三教会を一日で訪問することは時間的にも体力的にも不可能であるため、新宿区内の十六教会を対象として訪問することにしました。そこで北支区五十三次の副題を

励まし合いの喜び

「第一回新宿区編」としたのです。この第一回は、二日間の予定で実施されましたが、初日は早稲田奉仕園を会場として、室内での交流となりました。開会礼拝に続いて鍋を囲んでの夕食、楽しいゲームを通じて交わりを深めました。

総勢十七名で目白駅前に集合した参加者は、自転車のペダルを力一杯漕ぎ出し、意気揚々と出発しました。最初の訪問教会は、目白教会、続いて下落合教会です。参加者の自己紹介に始まり、教会の様々な取り組みに関する青年たちの質問への応答、更には施設を案内したり、最後に青年に祈って頂いたり短い時間

顔の見える関係を目指して

共に出迎えて下さり、全員が疲れを忘れて談笑しました。戸山教会では、牧師から教会の歴史を伺った後、教会バザー準備の様子を拝見させて頂きました。この

「北支区五十三次」を通じて青年たちと共有出来たことは、同じ区内とは言っても地域性の違いが豊かであること、そして神から委託されている宣教の使命を具体的・实际的に果たしている各個教会の現実の姿に触れられたことです。恥ずかしながら筆者は、残り数教会という段になっ



道半ば、エパタ教会前で。働きを覚えて、真剣に合わせる祈り



最後の力を振り絞って。戸山教会に向けてペダルを漕ぐ

会訪問するのが限界ではないかと密かに不安を感じながらの出発でした。しかし、青年たちと雨の町を自転車で行くと、そういった不安はすぐに払拭されました。互いに配慮して道を譲り合ったり、疲れたと見れば気

迎えることは出来ました。「第二回」は、翌年四月二十九日を予定しています。北支区のみならず他地域でも、青年会活動を通じて互いに顔の見える関係の輪が

北支区青年部ホームページ
<http://www.geocities.jp/kitasei07/index.html>

訂正・お詫び
第四六三九号第一面常議員会報告記事で、『会議冒頭、議事日程承認では、この「教師退任勧告」議案を取り下げるよう強く訴えられた。本常議員会前には、同等の取り下げ要望・抗議が奥羽、神奈川、京都、兵庫、東中国、西中国、九州の各教区から、また紅葉坂教会からは質問書が常議員会宛てに送られていた。』とありますが、文中から、『奥羽』を削除致します。奥羽教区が、教区常置委員会決定に基づき『取り下げ要望・抗議』をした事実ではなく、常議員会に寄せられた抗議文書は、『江刺教会牧師 邑原宗男』名によるものである旨、岡村宣奥羽教区書記より、指摘を受けました。誤解を与える記述であったことを関係各位にお詫びし、訂正(削除)させて頂きます。
また、前述のものを始め、殆どの『取り下げ要望・抗議』は、未受洗者の倍餐を認めるものではないのに新報の記述は誤解を与えると指摘も、同書記よりありました。新報にはもとよりそのような意図はなく、そのような表現をしたつもりもありませんが、誤解を生んだとすれば、尚、分かり易い表現に留意致します。(神保望報)

未受洗者配餐をめぐる

日本基督教団 総会議長 山北 宣 久

苦渋にみちた「勧告」に至るには

聖餐にはバプテスマを受けた信徒が必ずかるものとす
る。

苦渋の常議員会決議

第35総会期第三回の常議員会
は苦渋にみちたものでした。

それは「北村慈郎教師に
対し教師退任勧告を行う
件」を上程し、審議し、可
決したことをさします。

この議案上程と同時に、
案件を撤回するよう要望書
が寄せられ、議決後も抗議
が届けられています。もっ
とも、常議員会はこの重要
議案をきちんと扱い、教団
としての筋を通すようにと
の要望もありましたが、
ここでは、この件につき
反対する意見に対して「メ
ントするよう」との依頼に
従っています。

闇討ち、騙し討ち！

前回の七月常議員会にて
北村慈郎教師が紅葉坂教会
にて未受洗者への配餐を行
っていることを報告し、聖
餐の在り方に多様性があっ
てよいと主張されました。

これは議長の要望に応じ
てなした懇談会での発題内
容です。

ここで、あの懇談会は「自
由な議論の場」として設定さ
れたものであつて記録もと
らない」というものであつ
た。それなのに言質を取る
仕方であり、勧告をする
たものであり、各方面で語
っていたものを改めて肉声
で聞いたということであ
る。

あの懇談会は常議員会の中
で開催されたものであり、
議案ではありませんが、
議事であり、非公開ではあ
りませんでした。従つてそ
の発言は重責と責任を伴う
ものです。

また記録をとらないとい
うのも議事録として残さな
いということであつて、公
的な発言と受止められるも
のであることはいうまでも
ありません。

猪突、唐突といいますが
北村教師の発題は、長きに
わたる未受洗者への聖餐執
行についての持論を公表し
たものであり、各方面で語
っていたものを改めて肉声
で聞いたということであ
る。

なぜ、今なのか？

「未受洗者への配餐はす
でに執行している教会は少
なくない。なのになつた一
回の発題をもとになぜ一罰
百戒的に取り扱うのか」と
いう問いも多くあるよう
です。

確かにこの問題性は承知
していました。

しかし、当面する様々な
議決すべき事柄に押されて
常議員会で正面から取り扱
うことができないでいたこ
とは議長として詫言なけれ
ばなりません。

しかし決して等閑してい
たではありません。ここ
三年連続、教区総会への議
長挨拶では「正しい聖礼典
の執行」を訴えつづけ、議
場でも質疑をなしてきまし
た。

特に本年度の議長挨拶で
は未受洗者が聖餐に与ること
は「明確な教憲・教規違反
です。そして教会としての
生命を奪ひ、教職同士や
教会間の信頼関係を損ねる
重大な問題として放置して
おくわけにはいきません。

当事者の自制を促すことも
に、正しい聖礼典の執行を
巡り、措置をとっていく所
存です。」と書きました。

また昨年の教団総会での
議長総括の中で「荒野の四
〇年」と題して十二項目の
神への懺悔を教団がなすべ
き点の一つとして「聖礼典
が正しく執行されない現実
があること」を挙げました。
むしろ遅すぎたくらいで
す。性急でも、拙速でもな
くもつと早くから取り上げ
るべきことだったのです。

ようやく信仰職制の重
要問題を取り上げられるよ
うな教団になったというの
が偽らざる現実でしょう。

もつと議論してから
聖餐をめぐるではかねて
よりいろいろな立場があ
り、意見、考え方が多様な
のだから、それを捨象して
の「勧告」はいかにも無茶
だとする声も満ちていま
す。

聖餐論はいろいろあつて
も良いのです。しかし、執
行はいけません。あの懇談
会も聖餐論をめぐる協議
したのではなく、執行して
しまつていふことをめく
つて問題を扱つたのでした。
合同教会として多様な考
えを持つ教団ですが、それ
ら多岐にわたる意見を出し
合った拳句、明確に陪餐者
を規定したのです。

ですから未受洗者が洗礼
へと導かれ、共に聖餐に与
れる喜びを目指して伝道し
ていくことにこそ私たちは
祈りと力を結集し、合同教
会としての多様性を生かし
て行きたいのです。

「何を言つても良い教団」
は「何をしても良いという
教団」ではありません。

自己抑制をしながら、信
頼関係を構築していくべき
でしょう。

自分の意見を通すのであ
れば規則変更を提案すべき
です。そしてそれまでは現
行規則に従つてというのがル
ールではないでしょうか。

それをしないで信仰告白
と教憲、教規という枠組み
を逸脱して何とも思わぬと
いうのは我儕と言われても
仕方ありません。

ですから何としても未洗
者への配餐を直ちに停止し
ていただきたいとの願いを
こめ、あるべき姿への立ち
歸りを訴えているのが「勧
告」決議案なのです。

不一致、分裂の危険が
この「勧告」を強行すれ
ば折角こゝまで一致してき
た教団を不一致にし、分裂
への新たな一歩を招きかね
ないではないかと危惧があ
るのは確かです。

しかし不一致と分裂の危
険を招致するのは誰でしょ
う。未受洗者への配餐を執
行する人々ではないでしょ
うか。

多様性とは「何でもあり」
とは全く違います。教団は
その信仰上の組織として教
憲・教規によって立つ教会
です。

「聖餐に関する問題は、規
則で云々すべき事柄ではな
い」と主張されますが、信
仰共同体としての教会は教
憲・教規によつてその具体
的姿を現しているもので
す。

だからこそ、信仰職制委
員会も未受洗者への配餐は
違法であることを答申し、
仮に教会総会や教会役員会
が決定したものであつても
その決定は無効であること
を定めているのです。

どうか違法聖餐を正当化
しないでいただきたい。全
体教会たる教団の一員とし
てルールの中で行動してい
つて貰いたいと切望してや
みません。

しかし、それは信仰の良
心に基づくもので譲れない
というならば残念ながら
「異なる教会の在り方を主
張、実践されるのであれば
日本基督教団という教会に
おいてではなく、独自の教
会を建てるべきでありま
す」という「勧告」の内容
になつてしまひます。

常議員、議長は越権
そもそも常議員会は一教
職の退任を勧告することな
どできるのかといわれま
す。

戒規にかけることは教師
委員会の掌握事項ですから
常議員会も、総会議長もで
きません。しかし、勧告は
できます。今迄も重要な声
明や決議をなし教会の内外
に公にしてきています。

また議長は教規三九条⑤
で「常議員に諮問し、また
決議すること」と総括行為
が明記されています。

教団が教会でありつづけ
られるか否かの大切な問題
を見て見ぬ振りをするなら
議長の怠慢は責められるこ
とになります。

教会が立てた牧師なのに
教会担任教師を立てるの
は各個教会の決定事項であ
り、教師と教会、信徒は相
互の信頼と契約に結ばれた
ものである、なのに教団が
介入し「退任」を求めるこ
とは各個教会の自主性を著
しく侵害するものであり、

招聘制を破壊するものだ
と声も湧き上がつていま
す。

教会の自主性とは何でし
ようか。まさか悪しき各個
教会主義のことではないで
しょう。自主性はアナーキ
ー、無制度、放縦とは同義
ではないはずで

す。そもそも「教師」を立
てるのは、各個教会ではあ
りません。教団が立てた教
師を各個教会が招聘するの
です。

ですから自主性の侵害な
どというものはなく、教
団が立てた教師が枠を超え
てしまつたら、究極の任命
え給え！

主よ我らを憐れみ導き給
え！ 神よ我らに勇気を与
え給え！

者であるキリストに對して
責任を果たしていく仕方で
各個教会に向き合つべくそ
の教師に自制を求め悔改め
を促していくのです。

洗礼を無意味化し、福音
をヒューマニズムに流し込
み、差別と区別を曖昧にし
てしまつてから免れるた
めにも、この未受洗者への
配餐問題をはつきりさせま
しょう。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

日本基督教団は何よりも
先ず教会であるのですか
ら。

宣教方策会議の概要等を決定

第3回宣教委員会

第35総会期第三回宣教委員会が、去る十一月五日(月)～六日(火)、千葉県館山にあるじのいえといいこの村館山を会場に行

われた。

まずじのいえのチャペ

ルで篠浦千史委員の説教に

より開会礼拝が行われた。

マルコ八章二二の盲人の

癒しの記事から、「見るべきもの」を徐々に見えるようにされる主イエスの配慮に満ちた奇跡が語られ、町の喧噪に入らず、身を起こったことを主の御前に静かに受け止める大切さが示された。

議事では、まず諸報告。常議員会報告では、当委員会から「要望書」を出した未受洗者陪餐の問題について「北村慈郎牧師に対し日本基督教団の教師退任勧告を行う件」が可決されたこと、「日本伝道一五〇年記念行事を開催する件」が可決され、そのための五人の委員に宣教委員長と伝道委員長が選ばれたことが報告された。

スト教育主事の養成がどうなるか今後の課題となることが報告された。その他の常設専門委員会の報告は

新報にあるので割愛する。全国教会婦人会連合からは、教団の自主活動団体としての理解を深めてもらうために各教区の婦人の集いに中央委員を派遣することが報告された。

「障がい」を考へるは、全国交流会を二〇〇八年六月十七日(火)～十八日(水)、戸山サンライズ(東京)で行うことが報告された。これに合わせて宣教委員会の日程を変更した。協議では、障害者差別問題小委員会の報告は、

題小委員会の名称変更について、設置時の趣旨「障がい」という言葉遣いを更に検討することになった。また、宣教方策会議の概要とプログラムを決めた。かつての「宣教基本方策」策定について内藤留幸総幹事の話聞く。伝道協力の

発題を三氏に、三教区からの報告を依頼する。夕食時、「じのいえ」に入居しておられる方々と交流の時をもった。伝道者の気概に触れ、教会婦人会連合の祈りと働きを実感した。

する見解を表明するようにとの要請である。当委員会が直接諮問を受けるのは教団・教区の機関からであるが、これは教団内任意団体からの「要請」を総幹事が受けとめて諮問したものである。

拝をささげることが伝道の中心としての礼拝と言えるのではないかといったことを確認して会を閉じた。異なる形式に触れたことで、礼拝や伝道への形ではなく、心づもりが改めて問われたように思われた。

参加者は、十八教会八一名(うち教区内は十七教会七〇名)であった。

(服部修報)

消息

妹尾活夫氏(隠退教師)



(大村栄報)

九月四日逝去。九三歳。愛知県に生まれる。一九三九年関西学院大学神学部卒業後、大阪八幡屋教会に赴任。その後廿日市、広島南部教会を牧会し、五八年から六〇年まで関西学院大学教務教師、七六年まで東梅田教会、八二年から八九年まで御影教会牧師を務め、九〇年、隠退した。遺族は息の正和さん。

東中国教区・第1回伝道協議会

「礼拝ー今、礼拝を問い直すー」をテーマに



ギターやドラムによる讃美に導かれ

去る十月八日、岡山教会を会場にして、「東中国教区・第一回伝道協議会」が開催された。テーマは「礼拝ー今、礼拝を問い直すー」であった。

協議会の目的は、伝道の中心である私たちの礼拝を見直し、また確認しよう、ということにあった。そのため、午前中に礼拝を行い、シンポジウムを行なう計画を立てた。

礼拝は、私たち自身の礼拝を客観的に見るために、教団以外の教会に依頼できないだろうかということになった。賛否があることは

承知の上で、岡山市内キリスト教連合の仲間で、三年前に開拓伝道を三人から始め、現在平均十五名ほどにまで成長した、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴット教団、津高リバーサイドチャーチの牧一穂教師に依頼したところ、快く引き受けていただけた。



十月十一日、逝去。九七歳。東京都に生まれる。一九四一年青山学院大学神学部女子部卒業後、阿佐ヶ谷教会に赴任。八一年まで同教会伝道師を務め、隠退した。

大阪 主にある一致と 前進のために

向井希夫

教区 コラム

大阪教区では今年度、総会準備委員会が推薦した開会礼拝説教者を四月度常置委員会で「ふさわしくない」と否決してしまいました。しかし、新しく総会で選ばれた常置委員会は、その誤りを認め、当該教師に謝罪する決議をしました。わたしたちは謝罪文で「信仰の在り方を軽々しく評価したり、断定することが、どれほど主に対して罪深く、人に対して愛に欠けることであるかを心に刻み、物事

ある一致と前進のために」という文章が決議されました。その文章人として排除されることのない、主の愛に満たされた教区形成を強く折り、求め続けています。

(大阪教区総会議長)

牧師のパートナー

全国教会婦人会連合 牧師夫人研究委員会

る事も示した。一九七五年牧師夫人による自発的グループが結成され、全国教会婦人会連合の小委員会として承認を受け発足に至る。

当初その活動目標は①全国的レベルの集まりを持つ②お互いの実態を知って伝道の活力となるよう努める③各教区で開かれる牧師夫人会の情報を得、交わりを深める。全国レベルの集いは二年に一度夏に行われ今年で十六回目を数え、一年一回発行の牧師夫人便り「道のり」は五〇号を迎える。

「今後の展望」委員会発足より三年の時が経ち時代の様も変わり続ける。「牧師夫人」という呼称についての是非が問われて久しいが婦人教職の増加に伴いそのパートナーは男性であり最早「牧師夫人の会」では内包力に欠ける。今後の課題の一つであろうか。過去数年の「全国の会」について見ると、夫婦、家族での参加が増えつつあり、和やかである。若い夫人方の参加が待たれるところであるが、魅力のあるテーマの選択、開催地、費用等更に検討を重ねていきたい。

今夏行われた全国の会でのアンケートの結果を見る限り「ぜひ続けて欲しい」との声が多い。この会の存続に関する迷いは消えた感がある。

日本宣教の一端を担うべく

横山 利江
(牧師夫人研究委員会委員)

「歴史と概要」二〇〇五年八月、四国松山で開催された「第十五回全国牧師夫人の会」が盛会のうちに終わろうとした時、一人の夫人が声を上げた。「これから日本の伝道を担う若い牧師の家庭の為に提案したいのです。牧師館は教会の敷地から離してほしい。牧師家庭のプライバシーに理解と配慮をお願いしたいのです」それは、自分の経験からくる切なる訴えであった。

「牧師夫人研究委員会」発足の歴史に触れる時、実にこの松山での一夫人の発言こそはそのスタートの出来事と重なるのである。

一九六七年五月青山学院で開かれた「全国婦人集会」の折、二人の牧師夫人が「私の訴え」としてその生活の実態を話された。牧師夫人の置かれている状況、抱えている問題を直接聞いた多くの方々は衝撃を受けこのことを契機に一九七〇年牧師夫人達によって「牧師夫人生活実態調査」が行われ、牧師家庭の問題を広く訴えた。そしてそれは同時に教会の問題であ

まとめた「道」につかわれて」を発行。一九八一年、委員構成に教職、信徒も加わり問題を複眼的に捉えて行く事を目指し名称も「牧師夫人研究委員会」となる。(現在教職2信徒2牧師夫人4)

一九八九年に「成熟への道のり」牧師夫人をめぐる考察」を小冊子にまとめる。一九九八年に再度「牧師夫人の意識調査と生活実態」についてのアンケート「集計報告を」道のり」四〇号」に発表。



「16回全国の会」全体写真 於山代温泉 2007.8.22

本所緑星教会バザー

本所緑星教会では、数十年にわたり、秋にバザーを開催してきた。収益はこれまですべて対外献金となる。今年(九月三〇日開催)は、「中越沖地震被災者救済」「日韓アジア基金・日本(カンボジア)の子どもたち」に学校を」の二箇所に分けられる。

このバザー、教会員の高齢化などにより、年々担い手が少なくなってきた。そんな中で、考えられたのが地域の方々が参加する企画であった。昨年より、教会最寄り駅の一つ「JR錦糸町駅」近くのインド・バングラデシカレー屋の「バスマティ」(店名)の屋台が出るようになった。

写真の中央は店長のソヨド・ヌルル・アミンさんである。アミンさんはイスラム教徒で、京成線の「お花茶屋」近くにあるモスクで礼拝をささげている。キリスト教会のバザーにイスラム教徒が参加すると地域では評判になり、多くの方々がバザーにやってくるようになった。ある方は、「キリスト教会アメリカはイスラムと仲が悪いが、本所緑星教会では違いますね」と言ってくださった。バザーを通して世界平和とは大げさかもしれないが、地域から、大切なことを発信できればと願っている。

今年はまだ、教会の近くの歯医者さんが、「無料歯科検診コーナー」を担当してくださった。

「無料歯科検診コーナー」を担当してくださった。

「無料歯科検診コーナー」を担当してくださった。

(矢吹一夫報)

お知らせ

★在日・日・韓キリスト青年共同研修プログラム/時〇〇年2月25日(月)〜3月1日(土) /所〇韓国(ソウルおよびその周辺) /内容〇①日本軍「慰安婦」問題より学ぶ②北朝鮮と韓国の分断の痛みを知り、統

一にむけた動きに学ぶ/参加費〇2万円(韓国の航空代金は自己負担、参加費・交通費共に補助あり) /主催・問合せ〇日本キリスト教協議会(NCC) 関西青年協議会、担当:小笠原 〇90-42296-317 9、e-mail:oga-503@angel.interq.or.jp

ひととき

さんの 三野 よしひと 慶仁さん

小豆島から、今日も書いています



1961年生まれ。内海(うちのみ)教会牧師。11月23日、教会創立60周年記念礼拝を献げる。 URL <http://sanyoshi.blog76.fc2.com/>

好きな言葉は、「悔い改め」あしたのために「楽しい生活」共に生きる。嫌いな言葉は、「後悔」「あなたのため」「やればできる」。

紆余曲折を経て九〇年に神学校を卒業し、日本福音ルーテル教会の牧師となり、〇四年に教団に移ったが、牧師としての生活も紆余曲折だった。

岡山時代、心臓病が悪く、教会員の医師から「あと五年の命と思ったほうがよい」と言われたが、予測は幸いにも外れた。釜ヶ崎で本田哲朗神父と出会い、自分がキリスト教の信仰に惹かれていたのは、メタノイア(悔い改め)であったことに改めて気づかされる。「あした」を見つめて精一杯生き、「後悔」

はしない。「あなたのため」ではなく、「共に生きる」労苦を味わい「やってもできない」事実に向面しながらも、それを越えた「楽しき」に生きる。イス様もそのために来られたと信じる。これがかたに染み渡り、今に至る信仰生活の基盤となった。

松山では、精神障害者小規模作業所に施設長兼指導員として従事し、この頃、教団への移籍の転機が訪れた。松山古町教会の副牧師として一年余り奉仕した後、新天地で「から」いや「マイナスから」始める思いで、小豆島の内海教会へ赴任した。礼拝への出席者は、自分たち夫婦と四人の子どもの他、数

名。「過疎の地で、ひっそりと始めよう」と思っていたが、教区の集会などで度々紹介され、かえって目立った。昨年から「ブログ」を書き始めた。教会員は高齢で、読む人はいない。しかし「教会の敷居が少しでも低くなれば」「一般の方に読んでもらえて、底にある信仰を感じ取ってもらえれば」と願って毎日記す。「ブログ、楽しみに読んでいます」と言われるようになり、「力ぜをひいた」と書いたら、高松に住む人が見舞いに来てくれた。ひっそり始めた歩みだが、確かなつながりを広げていることが嬉しい。

あるキリスト教ジャーナリズムの統計発表によると教勢の低下に伴う教会の多くが閉塞感を抱いていること、その要因ベスト8を挙げている。

- ①信仰の弱体化。
- ②教職の交代と無牧。
- ③社会、環境の影響。
- ④教会の体質の問題。
- ⑤教職の質の問題。
- ⑥高齢化。
- ⑦霊性の低下。
- ⑧社会との遊離・乖離。

さらに閉塞感をもちたらず減少の現象ベスト6を列挙していた。

- ①新来者。
- ②青年。
- ③教会学校。
- ④受洗者。
- ⑤礼拝者。
- ⑥献金額。

これらはこの教会でも共通している。

閉塞感を打破して

低下、この減少ベスト6に歯止めがかからないことが報ぜられていた。

わが教団も傾向を同じくしているであろう。しかし、だからといって閉塞感を感じるというのは別

問題だろう。昔から教会は閉塞感を感じる只中で、福音の真理に立ち、聖霊の導きを信じて伝道し教会を形成してきたはずだ。教団の閉塞感とはむしろ先に挙げた要因ベスト8以外のところにあるように思えてならない。それは同じ信仰告白と信仰のルールに立たない不一致の横行からもたらされるように思える。信仰告白、教憲教規に立つ者を頑迷な原理主義者呼ばわりされる状況からくる閉塞感を打破したいのだが。

(教団総会議長 山北宣久)